



JRC部～これまでの軌跡～ 広がる活動の輪

倉敷高校 JRC 部 (Japan Red Cross) は、学校内外におけるボランティア活動に取り組んでいます。「できる時に、できる人が、できることをすればいい」というのがボランティア活動の原則です。

ゴミ拾いから始まった JRC 部の活動も 1 年以上が経ち、メンバーが増えたこともあり非常に多様な活動となっていました。第 4 号では、時には新聞にも取り上げられるようになった倉敷高校の JRC 部の活動、その一部をご紹介します。

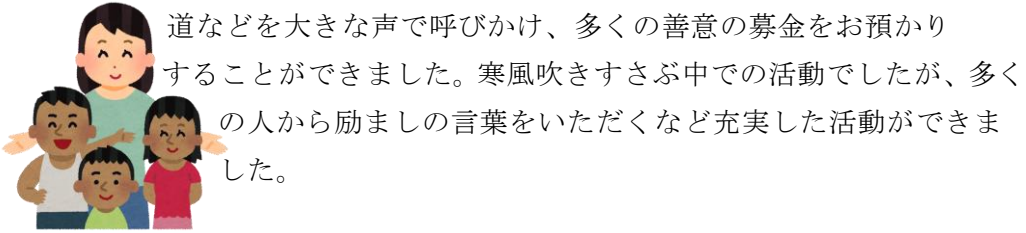


募金活動が朝日新聞、山陽新聞に掲載されました。

海外助け合い募金

平成 29 年 12 月 17 日(日)午後から、JR岡山駅前、表町商店街、イオンモール岡山など岡山市内 6 カ所において、岡山県高等学校青少年赤十字協議会に所属する高校生約 70 名が、日本赤十字社、NHKなどが主催する、海外助け合い募金における募金活動を行いました。倉敷高校 JRC 部員も多くの部員が参加しました。

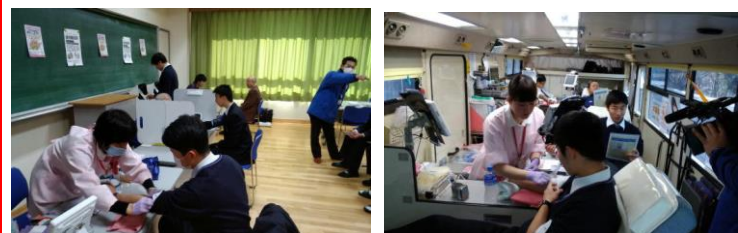
当日は、日本赤十字社岡山県支部に集合し、午前中は、〈海外助け合い募金〉のしくみや意義について学習したうえで、6つのグループ分けを行い、自己紹介の後、徒歩でそれぞれの募金場所へ移動。午後 1 時から 3 時まで、「岡山県高等学校青少年赤十字協議会による募金活動をおこなっています。」「500 円の募金で赤ちゃん用のおむつが、50 枚購入できます。」など募金の主旨や、使



道などを大きな声で呼びかけ、多くの善意の募金をお預かりすることができました。寒風吹きすさぶ中での活動でしたが、多くの人から励ましの言葉をいただくなど充実した活動ができました。

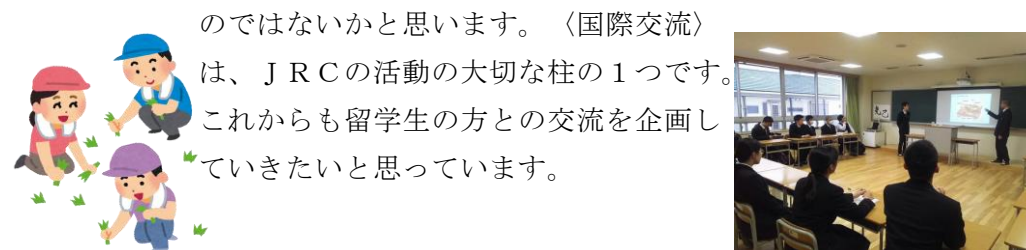
卒業記念献血

2 月 13 日(火)岡山県赤十字血液センターの協力で、本校において、主に 3 年生を対象とした〈卒業記念献血〉が行われました。寒い時期には献血が不足するそうです。血液の安定供給、卒業という人生の大きな節目に社会貢献を！という思いから、JRC 部員のみならず生徒会、留学生、そして先生方の協力もいただきました。科学が発展した現在でも、血液を人工的に作り出すことはできませんし、献血していただいた血液にも有効利用の期限があります。参加者からは不安だったけれど実際には痛みもさほどでなく、世の人のために役立つ事ができよかった」「これをきっかけに、卒業してから後も献血に協力していきたい」などの感想をいただきました。



中国人留学生との交流会

2 月 14 日(水)放課後、中国人留学生 7 期の有志の方との交流会を行いました。ちょうど、中国にとって最も大きな年中行事である旧正月・春節の直前ということもあって、テーマは「お正月」。JRC 部員も、「おせち料理」「お正月のイベント」「お正月の遊び」などの発表を、パワーポイントを使っておこないました。留学生の人も、中国の〈春節〉の過ごし方を、食べ物(鍋料理、魚料理、水餃子)や飾り(福飾り)、中央テレビ台の「春节联欢晚会」(日本での「紅白歌合戦」にあたる視聴率 90%以上の年越し TV 番組)などを紹介してくれました。そして、そのあとは、七輪でおこした炭火で焼いた餅を、砂糖醤油、きな粉、海苔で食べる大試食会！留学生の人には、〈七輪〉の炭火による遠赤外線でごんがり焼いた〈餅〉という貴重な体験をしてもらうことができた



のではないかと思います。〈国際交流〉は、JRC の活動の大切な柱の 1 つです。これからも留学生の方との交流を企画していきたいと思っています。

中庄小学校で読み聞かせ

倉敷市立中庄小学校で、本校 JRC 部員が読み聞かせのボランティア活動を行っています。

読み聞かせボランティアは、2 人 1 組でペアを組み、事前に、ベテランのボランティアの人たちが読み聞かせをしているのを見学させていただき、2 週間にわたってしっかり練習をしたうえで、この日の活動となりました。それなりに準備をしていたとはいえ、やはり大勢の子どもたちを前にしての読み聞かせは、とても緊張していたようですが、どのクラスでもしっかりと聞いてもらえて、終わった後では、本の感想だけでなく、高校生活についての質問をされた人もいて、とても楽しく充実した活動になっているようです。

中庄小学校での読み聞かせボランティア活動は、これからも定期的に続けていく予定です。



JRC 部の活動を支える先生方から

きばれ！JRC 部

副校長 仁科 康先生

始業前、中庄小学校の教室から本校 JRC 部員の絵本を読む声が聞こえてきます。そのお兄さん、お姉さんの姿を食い入るように見ながら耳を澄ませて聴く 1・2 年生児童。ほのぼのとした光景でした。お互いの心が和み、お互いが人としての成長に繋がるボランティア活動。その機会を与えてくださった関係の皆様へ感謝いたします。そして、さらに幼稚園の預かり保育、福祉施設や地域の行事にも協力し、地道に社会に貢献する JRC 部員の活躍にあっばれ！

輝け！JRC 部員

JRC 部顧問 高野 敦先生

「教室で授業をしていたら、正直言うと、どこに座っているか気づかないような静かな目立たない男子だった。」これは現在、JRC 部部長を任されている木村駿祐君(倉敷市立玉島東中出身)を見ていた教科担当の教員のコメントです。その彼が一つひとつの活動で輝いています。JRC 部ってそんな場です。昨年度始めは部員 0 名からスタート。段々と部員が増えて、今年度のコンセプトは「育った地域や学校への恩返し」これからも頑張ります。